

まちづくり懇談会 山岡

日時：平成 29 年 10 月 24 日（火）午後 7 時～8 時 30 分

場所：山岡振興事務所 2 階大会議室

4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■市長 昨年 11 月終わりから市長になった。不慣れだ。昨年はどういった懇談会の時間が取れなかった。よろしくお願いします。最初にお詫びする。最近鼻がつまり耳も聞こえづらくご迷惑をおかけする。今日の懇談会には地域の皆様方にご尽力いただいた。お礼申し上げます。副市長も部長も私より年上なので市長がしゃべれということなので、私が最初から最後までしゃべる。

恵那市は 504 平方キロメートル、人口 5 万 1 千人、世帯数 1 万 8 千人。

人口について。合併が平成 16 年、その翌年から調査すると、5 万 5761 人が 5 万人に減った。人口動態と国勢調査では若干違うが。グラフで表すと 5 万 434 人まで 10 年で 9.6%の減。毎年 1%の人口が減っている。東濃 5 市で一番上が多治見市、それから中津川市、土岐市、瑞浪市。多治見は中央道のインターの横に大きな住宅団地を造っている。でも人口は減っている。土岐はアウトレットの下に 2 千区画の住宅団地をトヨタホームなどのハウスメーカーが造っているが人口が減っている。中津川市もリニアに絡め坂本駅周辺が大変住宅開発ラッシュで、結構人が増えている印象がある。が、中津川市でも減っている。瑞浪市の区画整理も併せて、東濃 5 市はどこも減っている。

出生数、第 2 次総合計画では 450 人が目標だったが、450 人に達したことは平成 17 年以来一度もない。400 人をキープしたのは平成 23 年までで、400 人を切ってからずっと減り、300 人台が 4 年間あり、昨年 290 人だった。率にすると、平成 17 年の人口を 100 とすると、昨年は 69%で 3 割減。東濃 5 市で一番低い。多治見市、瑞浪市、土岐市、中津川市、恵那市の順。子どもの数は人口減よりはるかに減っているということは、将来恵那市全体として人口が減っていく可能性が高い。

財政について。平成 29 年度の一般会計予算は 261 億 8 千万。人口 5 万 1073 人。恵那市の 1 人当たりの予算額は 51 万 3 千円。これが恵那市の行政コストだ。多治見市は 1 人当たり 32 万 3 千円。土岐市 40 万 6 千円、瑞浪 41 万円、中津川市 46 万 4 千円。恵那市は他市より余分にかかっている。施設の維持費用、道路、学校の維持費用がかかる。地域も広い。いろいろなコストがかかる。また人口が急激に減っているので割高に合っている。人

口減に合わせて予算を減らさないといけないが十分減らせていない。

29年度の一般会計の当初予算は261億8千万円、約262億円。特別会計が151億円。企業会計が111億円。

市債という恵那市の借金が一般会計で308億。このうち、合併特例債のようなものだと、返すときに国から措置される部分が120億。実質的に188億円残る。市民1人当たり36万8千円。もうすぐ広報で上半期の資産額が出るが、全体を1人で割っているのだから50～60万で出る。

基金は貯金に当たり、一般会計で163億円の残高がある。特別会計まで含めると171億円の基金がある。少額資金のように運用する基金も含めると184億円になる。1人当たり36万円になる。

私の印象として、少ない借金ではないが多すぎるわけでもない。今年の262億円、考え方として、世帯をもった若い人が1年間の収入が262万円で暮らしているとする。300万の借金があるが親が返してくれるのが120万あり、実質的に180万の借金がある。貯金も180万ぐらいある。だから存続できないわけではない。

市債は減らす方向で行きたい。基金は、184億を、目標として、一般会計の予算分ぐらいにもっていききたい。

財政に関する指標。経常収支比率、恵那市が経常的な収入のうち何%が固定費として使われるか。85%が義務的経費、いわゆる固定費として、たとえば職員の人件費や借金の返済にする。自由に使えるのは15%。ただ、多治見86.6%、土岐市87.7%、瑞浪市87.6%、中津川市89.6%で、東濃5市の中で平均的な数字だ。財政力指数は、100万円市の行政コストがかかるうちに自分のところで稼げるのは0.47しかない。残りの0.53は国やほかからもらってくる。多治見は0.73で自主財源率が高い。土岐は0.64、瑞浪も0.61、中津川0.50で、恵那は自主財源の率は若干低い。構造的な問題だ。高所得者が多い、企業が多いと自主財源率が上がる。実質公債費比率は、1年間で使ううちの借金返済に当たる部分。7.1%。これが15、20を超えると、夕張のように国の許可がないともう借金ができない。多治見はマイナス、土岐5.1、瑞浪4.2、中津川9.9。東濃の西部は、土岐、瑞浪は合併していないので健全な財政を目指している。恵那と中津川は大きな合併をしているし合併特例債の活用もあるので増えている。

そうした中で、人口減少を食い止めるために。はたらく、たべる、くらすの3つをキーワードでやっていきたいと選挙のときから訴えてきた。

これからはその状況を報告する。

はたらく。

1つめは工業団地。企業誘致はなくてはならない。働く場所をつくるという中で一番最初に来るのが工場誘致だと思う。恵那テクノパークが武並、三郷町にある。永田にニュー

エストパーク、これは民間が開発したもの。矢坪が岩村にある。明智に大久手、上矢作に門野がある。5つの大きな工業団地があり、全体で30社以上操業している。一番最近では三菱電機伊丹工場が、鉄道用の部品を作っているところだが、来ている。150人ぐらいの雇用が生まれた。工業団地は、日本中、豊田、鈴鹿、大きなところは企業誘致で大きな会社が来て、その会社が大きくなると同時に町が大きくなったというのが過去の事例だ。地道に続けていくことが必要だ。これをやっていく。今、恵那西工業団地を榎ヶ根公園の近くで開発している。それができたら次の企業誘致に入る。

新しい働き方としては、29年1月にオープンした、明智のおもちゃ資料館の跡地を利用して、サテライトオフィスを作った。地方創生の国の財源を利用した。今はパソコン1台で仕事ができる、IT系というような人たちは、インターネットがつながれば仕事ができるので、そういったことを展開できるためのお試し用のオフィスを作った。28年度取りかかり、今年1月にオープンした。これを活用するののも一つの方法だ。

耕作放棄地、農業を再度、働くための場所づくりにできないか。耕作放棄地は管理する手間、草刈りの手間などお金がかかる。生かせればここから収益を得ることができる。農地は恵那市で3935haあり、そのうち耕作放棄地は525ha、8分の1。耕作放棄率が13.4%。これを生かすのが大きなテーマだ。それに対し、4月19日の岐阜新聞にも載ったが、耕作放棄地のために恵那市と恵那農高と地元事業者（建設会社）3者で協定し、耕作放棄地ではれんげやエゴマを作って、はちみつを作る。そこで6次化する取り組みがスタートした。今もまだやっているはずだし、はちみつの取得ができたぐらいになっている。実験としてやっている。

笠置山の栗園。今年4月に最後の植栽をした。6500本。5年から10年で栗は最盛期を迎える。50トンぐらい穫れる。山一面栗畑で、ある程度高さのあるところでは日本一の栗園だ。栗は1反当たりの収穫は米よりも若干高い。特に今年は1kg当たりの価格が、昔はお菓子屋さんを持っていくとkg400円と言われていたが、800~1000円だと聞く。1反あたり20~30万ぐらいになる。

上矢作の石川トマト農園。耕作放棄地ではないが、お米ではない、農作物を使ってトマトの収穫をし、従業員も5名おり、研修生が1人。出荷量60トン。かなり一生懸命やっている。上矢作にはほかにもトマトをやっている人がいるし、山岡でもイチゴにチャレンジする人がいる。新しい農業への取り組みは、これから働く、収益を上げる、耕作放棄地をなくすといった視点からすると、どんどん応援して進めていくべき事業だ。

はたらくという意味では、シルバー人材センター。今会員数600人で、草刈りなどの軽作業、掃除、子どもの面倒をみたりということをやってもらっている。シルバーや働くお母さんといった労働力がこれから必ず必要になる。恵那市中の会社が人が足りないと言っている。働く場所はある。ただ、労働力が出てくるのは、60歳を超えた人、子育て中のお

母さん。こういった方は働く余力がある。この辺の方の働く環境づくりに着手している。一つは、長島のこども園。働くという視点で見てほしい。小さい子のいる母親は子どもを預けないといけないので、未満児を含めた大規模なこども園が 31 年 4 月にオープン予定。5 月 16 日には、恵那病院の旧の建物を改造して、病気になった子どもを預かれる保育所を開設する。最近、企業主導型保育所がある。会社が従業員のために保育所を設けることができる。これも国・県の制度ができています。これが恵那市で生まれようとしている。これらにより働く環境づくりをする。

もう一つ、働く場所として、8 月 29 日、恵那駅前に移住定住とビジネスの起業の相談窓口としてサポートセンター、恵那暮らしビジネスサポートセンターをオープンした。4 人ぐらいのスタッフでやっている。農業、ITベンチャーで起業したいなどの相談にも乗れるし恵那市に移住したい方の相談にも乗る。土日も営業している。9 月末まで 1 カ月で移住定住の相談が 90 件、ビジネスの相談が 65 件あった。

10 月 3 日、地方創世に関する金融機関との包括連携協定をして、同日、ハローワーク恵那と雇用対策の協定を結んだ。金融機関との連携協定は、市内に支店のあるすべての金融機関と行い、たとえばベンチャーで新たに相談したい人は資金調達が難しいので、金融機関それぞれの独自のメニューを活用してもらおう。移住定住では、新築物件は住宅ローンが借りやすいが、中古物件や古民家になるとお金を借りることが難しかったが、協定により金融機関それぞれのメニューを作っただけ、中古の建物を借りても金融機関からお金が借りられる。

恵那市で食糧自給率は 72%だと言われている。恵那市の総人口が年間に必要とするカロリーのうち、恵那市で穫れた米を含めた農作物のカロリーを計算したもの。県内全域では 2 割、3 割。国全体でも 2 割、3 割。恵那市は 7 割なのでいい方だ。ただ、もっと増やせる可能性がある、たべるという視点でいくつかスタートしている。

米。中野方に有名な坂折棚田があり、年間通じて観光客が来られる。棚田米でお酒を造ったり、米として販売している。ブランド米を作ることも一つだ。岩村の富田もブランド米を作っている。

食文化では、恵那では五平餅、団子のももある。へぼご飯もある。こういった食文化をどう生かしていくか。今年スタートしたのが、恵那たべるプロジェクト。料理人による料理教室。恵峰会の岡田さんや金寿司さん、花白温泉さんなどプロの料理人が協力してくれ、奥様方に対して、今までの料理教室とは全然違うものを行っている。毎月 1 回やっていて大変好評で、定員 25 名に対して 80~90 人ぐらいの申し込みがある。ただ、料理する前に、必ず健康保健課の職員が減塩や料理で気を付けることの講座もする。

たべるという意味では、栗は大きな魅力だ。栗きんとんで今菓子屋さんは忙しい。一つの産業として成り立っている。菓子屋で栗を消費する。その栗を地元で作る。そこで働く

人がたくさん増える。これが「たべる」と「はたらく」がうまく連携する一番いい例だ。どんどん増やしていきたい。

山岡にはおばあちゃん市山岡がある。売上が 2.2 億円ぐらいだと思う。売っているのはほとんど食べ物だ。農産物、レストラン、加工品。こういったものを消費できる場所がここにあるので、ここに向けて、はたらく、稼ぐということができると思う。らっせいみさが 1.6 億円ぐらい。ラフォーレが 0.5 億円ぐらい。特におばあちゃん市とらっせいは岐阜県内でもトップクラスの道の駅で、集客力も 50~60 万人。これからも伸び続けると思う。

くらす。この辺が国道 19 号で阿木川ダムを下りてきたところに恵那警察署がありこの横に正家第二土地画整理事業がついこの間起工式を行った。再来年 3 月に建物が建ち始める。大型のショッピングセンターや複合施設が建つ。川の近くに、ルンビニ保育園がありファミリークリニックがあり、60 区画の住宅団地ができる。東濃西部はいくつか住宅団地ができていのに人口が減っている。恵那はここ何年かほとんど住宅団地ができていない。民間の力も借りて住宅団地を造れば人口減少の歯止めになると思う。

昨年 11 月に恵那病院がオープンした。今年 4 月から産婦人科が開設し 11 月ぐらいから分娩がスタートする。準備万端だ。子どもが産めない町に人が増えるわけがないと言われたのは少し前だが、着々と準備が進んでいる。

救急体制の検討を新たにスタートした。今年 10 月 13 日に第 1 回目の委員会をスタートした。恵那市の中では、電話して救急車に来てもらえるまで 40 分ぐらいかかる場所がまだある。そういったところを少しでも早くしたいというのが願いだ。新たにこうした検討委員会をスタートすることで少しでも早くしたい。

恵那市独自なので紹介するが、家庭に音声告知端末がある。恵那市では光ファイバーを全世帯に結んでいるしケーブルテレビも見られる。いざとなると緊急防災情報や市からのお知らせ、地域のお知らせが流れている。8 月 18 日に山岡町小里川の方で農地が冠水するほどの大水が出たときも放送が流れたと思う。避難情報も流れる。もっと運用を細かくしていきたいし、安全のための取り掛かりの情報手段として考えている。携帯メールと告知端末を組み合わせ安全対策に取り組みたい。

10 年後にリニアが来る。岐阜県駅という美乃坂本で今描かれている絵がある。駅ができてショッピングゾーンがある。10 年はあつという間だ。恵那市として何ができるか、皆さんと一緒に考えていかないといけない。合併して 13 年だ。合併してここまで来るより短い期間で、リニアで人が動き始める。併せて、瑞浪恵那道路は 12.5km で、瑞浪市から工業団地の終わりの所までの 8.2km はすでに事業化がスタートしており今年度中に起工式まで行く。残り 4.3km はリニアが開通するまでに全線開通したい。

これは串原に移住した藤本さん。今移住している人が多い。

山岡町の話をする。

山岡町の人口は平成 17 年に 5313 人だったのが今は 4404 人。17.1%減。残念ながら、恵那市の平均が-9.6 で、平均より山岡町は人口減少幅が大きい。出生数。平成 22 年位までは平均的に 20 数人、27 人、32 人と生まれていたが、23 年以降は 20 人を切り、去年は 19 人。今踏みとどまっている感じはある。ただ、これから先どうなるかは予断を許さない。これは町ごとにばらつきが大きい。恵那市全体は 30%余の減だが、山岡町も 30%減。

最初に地域自治区の会長の 大石さんから、山岡では厳しい意見がたくさんあった、僕がしゃべったと言いましたがおっしゃる通りだ。選挙の折に、各地域のいろいろな方と話し、山岡町では先行きが暗いという印象があった。そういう話をたくさんいただいた。改めていいところがあるということをお話したい。

まず、おばあちゃん市山岡は、春先にガイアの夜明けというテレビで一番最初に 5 分か 10 分流れた。そのくらい日本中でも注目されている。こういった売り場を持っている。契約している農家があり、それぞれが加工所を持っていて、加工所で餅をついている人が年商で 1 千万だとテレビに出た。こういった可能性があるのも、ぜひこれは生かしていくべきだと思う。恵那市を挙げて、山岡町にこだわらず、近隣の方の協力も含めて、ここを一つの出口、売り場として考えていいと思う。

細寒天も日本一だ。私も職員時代からかかわっている。日本の生産の 8 割を占める。これを生かすまちづくりは必ず必要だ。寒天館ができリニューアルオープンして、今は明知鉄道の管理になっている。売上は毎年伸びている。4 千万から 5 千万の売上で頑張っている。これを出口、売り場にして、寒天をうまく生かしたまちづくりをしたい。

一つの例として、恵那峡に簡保の宿があり、日本中の簡保の宿で料理でコンテストをして、全国大会で優勝したのが恵那の青山君という料理人で、青山君がこだわっているのが山岡の細寒天。寒天のシートを作り、それで多重奏ということで、細寒天、恵那鶏、マスなどの押し寿司を作っている。今シーズンの秋、食べることができる。こうした取り組みで寒天のブランドはどんどん上がっていくと思う。

山岡の陶業文化センター。先日火入れ式に行った。毎年 6 千人ぐらいの利用者がある。私も担当としてかかわっていた。三菱電機の所長の奥さんが大阪から 2 年間だんなさんについて恵那に来ていて、陶芸ができるところをあちこち探して山岡にたどり着いたということだ。こんないいところがあるのになぜピーアールしないかと叱られた。そのくらいいいところだそう。もっと胸を張ってピーアールしてやってくれと言われた。サービスもいいし値段も安いしちゃんと陶芸ができるところはないと。何とかもっと増やしたいと思う。

農業。山岡全体では農地は 608ha。うち耕作放棄地は 99ha。放棄率 16%で、恵那市全体よりは若干多い。ただ、田んぼアートを含めて、山岡はやはり農業が一番主体だと思うの

で、耕作放棄地を生かせる取り組みをしたい。

ここから先は意見交換をする。それによりまちづくりを進めたい。

5. 意見交換

■司会 今日には懇談会ということで、フレンドリーに進めたい。手を挙げて、私が指名したら、マイクを受け取ってから地区名と名前、あるいは委員会や事業名と名前を言ってから発言してほしい。

■春日井 山岡町原中田で理容店をしている春日井もとひろです。今年夏、骨髄ドナーとして骨髄を提供した。その際調べたら、恵那市では助成金の制度がなかった。それを市民の声として市役所に一報し、気づいたら 10 月から制度がスタートした。僕のはてっきり年度内のスタートは無理かと思っていたが、市長ともつながりがあり、スピーディーに助成制度がスタートしたことにとっても感謝している。命にかかわることなので、少しでも、それがきっかけで骨髄バンクの登録者が増えればいいし、そういう制度があることによって恵那市にも人が移住してくれればと思う。お礼を言いたい。

骨髄ドナーは、骨髄を抜き取り患者に移植するというものだ。型が合わないと無理で、身内で 20 数%、血縁者だと 4 人家族で 30%、非血縁者では数百から数万分の 1 の確率でしか一致しない。一致しても仕事の関係、病歴などにより、必ず移植ができるわけでもない。骨髄を脊髄から取っている人が多いが、実際は骨盤だ。僕も、痛かったでしょと言われるが、全身麻酔をするので痛くない。麻酔が切れたら痛い、痛さも、今は立って歩けるし仕事もできる。年齢が 55 歳までという制限があるのでなかなか増えないが、うちの店に来る若い人には僕の経験を話し興味を持ってもらっている。

■司会 私は指先を切って血を見るだけでもひっくり返るので怖い、初めて知る話だった。

■山口 交流定住環境づくり委員会で空き家対策、移住者受け入れ等をしている。私自身が 18 年前に移住して、今も空き家を借りてお世話になっている。友だちに恵まれ山岡で生活している。

移住者の受け入れに市でも力を入れてくれ、委員会も、空き家バンク、恵那暮らしサポートセンターと連携してやっているが、移住者の受け入れとこれからたくさん出てくる空き家をどう活用するかとか、地域の担い手、草刈り一つでも若い人がもっと入ってきてほしいという声が聞こえるが、かなり難しい問題を抱えている。人の財産であるということと、実際に活動して見ると分かるが、親身になって里親のように、自分の親戚のようにお世話しないと、何も知らない人が初めての地域に入り分からないルールの中で生活をする、仕事も街と比べると豊富にはなかったり、ルールの違いから、思いの違い、こんなはずじゃなかったということも出てくるだろう。ただ、こういう環境の中で生活したい人、

いろいろなノウハウを町の中で蓄積してきて、それがこういう地域で生かせればいいんじゃないか。私もそうだが。そういうことができれば生きがいにもなるし、その地域を改革する、協力し合っているいろいろ始めることが可能になる。その進め方をどのようにしたらいいか、活動しながら悩みの種でみんなで話し合うのだが。ボランティアにも限りがある。ボランティアができるのは子育て世代は手一杯だし大学の子どもがいれば経済的にも大変で、仕事をリタイアすれば無理ができなくなる。ある程度収益につながるような、仕事として地域のためにもなりビジネスにもつながる形で、移住者の受け入れ、空き家活用ができるのが理想だ。市長はどう思うか。

■市長 山口さんとは前からお会いしている。年も一緒だ。収益、持続ができるような空き家対策、移住者対策ができればいいと思う。家を貸すことで収益を上げるとか、不動産屋さんではないが仲介に入るということは方法としてある。日本中うまくいっているところがある。皆さんと知恵を出し合い恵那市モデルを作りたい。今まではふるさと活性化協力隊の力を借りていたが、いつまでもそういうわけにはいかないので、ビジネスモデルとして成り立つ仕組みを作る必要がある。

春日井さんの件、ありがとうございます。フェイスブックという携帯電話のアプリでご連絡いただいた。直接メッセージをくれた。恵那市のホームページからの書き込みもしてくれて。見てないわけではなくちゃんと見ているし、できることはすぐやるというのが私も含めて担当スタッフの気持ちだ。これからも意見を寄せてほしい。

■司会 先ほどの市長の話にも山岡の話がいろいろあった。関連して、あるいはそのほかのことでもいいので発言してほしい。

■副市長 私から。皆さんに聞きたいのは、この4月から山岡診療所を指定管理にした。その辺で何かご意見、ご感想があれば聞きたい。前は市で直営だったが、現在は地域医療振興協会に医師を派遣してもらっている。もともと改田先生は地域医療振興協会だったが、前は市の直轄だった。4月から指定管理だ。移行した以降について。歯科診療所も地域医療振興協会にお願いしている。それも分からないということならスムーズにバトンタッチされているということだと思う。どうでしょうか。

——会場からは特に意見なし——

評価が落ちているということはないということだと思う。

明智のひまわりが来年4月から地域医療振興協会に移行する。民間でできるところは民間にお願いする。上矢作の福寿苑は2年前に市の直轄から恵北福祉会、付知に本拠地があるが、そこが経営している。ルール分で施設のためにお金を市から投入するが、それ以上に1億円ぐらい赤字で投入してきた。プロではなく市職員がやっていたので、どんどん赤字が膨らみ、毎年1億円ぐらい投入した。現在恵北福祉会にお願いしたところ、市と同じようなやり方をしているが1500万ほど利益が出た。市の職員は市に引き上げた。現在う

まく運営されている。そういうことで山岡診療所も指定管理にした。山岡の診療所に赤字があったわけではなく、もともとかいだ先生に地域医療振興協会から来ていただいたのでスムーズにいくだろうと思ったからだ。

■司会 診療所に行ったことがない人が多いかもしれない。私はときどき風邪で診療所に行く。かいだ先生は口が悪いが、追っかけの患者さんも結構おり、遠くから山岡に通って見えた人がある。私は「普段からうちへ来い」などと言われていたが風邪のときだけ行っていた。

■工藤（下手向） 現在 72 歳で、定年退職後に、米づくりに励んでいる。恵那市で昨年からの事業で、新婚さんおめでとう制度で、使っていただいております、約 10 件ぐらい。恵那市のいろいろな行事に頭を突っ込みたい方だ。山岡町の中では何も役がない。一住民として市長に質問する。

耕作放棄地がある。現在正家の土地区画整理、私も 1 週間に 2、3 日、恵那市の中に何らかの形でいる。今日も恵那ファミリークリニックで、血圧の関係で月に 1 回ほど通っている。土地の区画整理を、こんなところが何になるのかと想像していたら、今日聞くと住宅ができるということだ。あんないいところで住宅ができるということと耕作放棄地と相反する行動が恵那市で起きているんじゃないか。市長の言われることは概ね分かる。人を増やすということで市の中心に住宅を造るのはいいが、耕作放棄地を潰して住宅を造るのはマッチングしない。

■市長 耕作放棄地は 4 千 ha で、そのうち 8 分の 1 ぐらいが放棄されている。正家第二区画整理は、恵那市の中で一等地で、昔から、田植えも一番最初にあそこがやり、稲刈りも一番最初やっていたということだ。ただ、正家の皆さんはあのあたりを有効活用したいという地権者の強い思いがあり、組合として開発に舵を切った。市が主導して市街化しようとしているわけではない。あのあたりのもう少し南のお寺の辺りは、すき米という、1300 年ぐらい前に奈良の朝廷に献納されたお米が作られたといういい田んぼだ。守るべきところは守り、開発すべきところは開発するというめりはりが大事だ。市役所の南の辺りは順に市街化を進めてきた。19 号、市役所、ユニーなどがあり、19 号から 50m のところまでは市街地として整備されたところだった。これは、もともと全体の計画としては南側の農道までが市街地として建設しようというのが旧恵那市のときからの計画で、それを順に 3 つに分けて、正家第一、大崎、正家第二と進んできた。ここから南に延びるかどうかは地元との話もあると思うがおそらく守られるべき農地になると私は感じている。

耕作放棄地はお金を生む方向にもっていきたい。山岡の中でも住宅地があれば家が建つと思っている人が、選挙の時にも多かった。農振の網が強くてなかなかできないという話も聞いた。農振の見直しの手続きも農林の担当で今やっているが、必要なところは外し、必要なところは保全していく。

■黄地・山岡地域自治区会長 工藤さんに聞きたいが、山岡に向けて、耕作放棄地がたくさん出ている状況の中で、山岡としての課題解決の方法を何か考えているか。

■工藤 私は定年退職して米作りをして 10 年経つ。個人的に、作るだけではだめだと思いい、6 次産業で売る方もやっていかなければいけないと思いい、そこに楽しみをもって進んでいる。今そういった形で売ろうとすると、あまりにも個人が小さすぎて、自分では多くて 1 町分ぐらいしか作っていない。市場としてはもっと多く欲しいお客さんもみえる。個人ではなく一つの集落で団体を作っていないとその対応ができないと思う。個人ではなく、もう一つ上の段階でグループを作ってそこから販売に向けていけばいいと思っている。特に、こういうところからお米が欲しいというのが、病院から注文が、ほかの方から聞いて何とかならないかということを知ったこともある。病院は相当な量なので個人では無理だと思いい。個人で対応できない量を作るためにはもう少し大きなグループを作らないと。山岡でも各集落で何かできないかと思いい。

■農林課長 出番があるかと思いいて来た。工藤さんにはお世話になっている。ご質問はまさしくその通りだと思いい。国も、組織を大きくしなさいということで、昨年度山岡営農組合、田沢営農組合、原営農組合ができた。以前からある中央農業地と、4 団体ある。国も、中間管理機構の制度を使えば、機械が買いたければ補助金が来やすい。個人が悪いということではないが、耕作放棄地は大きな組織を作っていくことが大事だと思いい。下手向も呼びかけていただき、市も協力するので、相談してほしい。

■市長 今農地を支えているのはお年を召した方が多い。僕も田んぼを持っているが人に頼んで作ってもらっている。空き家の話もそうだが、10 年、20 年のスパンで考えたとき、人口が減り、お年寄りが耐え切れなくなって、空き家と耕作放棄地が急激に増える可能性がある。それに対して、営農組合や空き家対策の組織を作ろうという話があると思いい。地域の皆さんと一緒に考えていけなない。手遅れになる前に。知恵を出し合ってほしい。私どもも一緒に考える。

■西尾・山岡町地域協議会 市長から財政状況の説明があった。マスコミは国と地方で 1 千兆円の借金があるという。これを次の世代に引き継いではまずい。恵那市はバランスシート上で言う貯金と市債、借入金が同等だということで安心した。施策の中で、はたらく、たべる、くらすというのが順調に推移していると伺った。今後ともしっかりとやってほしい。

地域協議会で恵那市から質問を受けた。地域公共交通について。市の財政の中で、山岡町で 2700 万円ぐらいをつぎ込んでいると。費用対効果を今後もしっかり押さえたいければ無駄が排除できる。もっと市の財政もよくなると思いい。無駄のないように、ちょっとしたことでも市から諮問を地域に投げかけていただければ、三人寄れば文殊の知恵でいい方向へ協力してやっていけると思いい。

■副市長 バスの赤字額は恵那市全体で1億6千万円ある。恵南地域は明知鉄道を幹線として、明知鉄道をつないで山岡駅から吹越まで結んでいる。上矢作では岩村駅から小田子まで。串原は明智駅からささゆりの湯まで。明知鉄道と密接な関係をもってやっている。しかし、ここまでこういったやり方で来たが、1億6千万の赤字額を支えきれんかという問題がある。山岡町にはデマンド型、必要なときに電話するという形で、市は今まで通りやるが、そうでないところは平和コーポレーションに前日に電話すると走るといふ、ルートを作りながらやるということを試行したい。地域に入ってお話に来ると思うので、皆さんとしてどうなのか議論してほしい。ただ、地域では公共交通機関はどうしても外せないという気持ちはあると思う。定時運行が必要だと。確かに分かるが、理解してほしい。バスも小型化する。大きなバスが空で運行してどうするんだという話もあるので。

明知鉄道は社長は市長だが、通学の子どもが減り、観光客を主体とした売上を伸ばそうとしている。が、限界がある。機会があれば明知鉄道に乗車してほしい。

■市・公共交通（西尾） 春に恵那市から山岡地域協議会の皆様へ山岡の公共交通を見直してほしいということで諮問した。地域協議会の中で、地域協議会長、区長会長で10名の検討委員会を立ち上げ、現在山岡の交通について、どういったことが適切か、視察を含め6回検討してもらった。今後、運送方法の検討を含め、地域協議会に諮るので、ご意見をいただきたい。

■丸山・山田地区 まちづくりでは交流定住、空き家対策、観光協会、えーなの田んぼアートなど、いろいろやっている。高校のクラスメイトが市長になるとは夢にも思っていなかったので不思議な感覚だ。

農地について。第一種の優良な農地から、洞っぼの水はけの悪い、扱いにくい農地までいろいろある。農業振興地域の農用地区域に指定されているばかりにそこがほかの用途に使えない、耕作放棄地であつてもちょっと耕作できないというところまで農業振興地域の農用地区域に指定されているところが結構ある。農業振興地域の農用地区域に指定されているというのは、昔土地改良をやったので、そのまま農振農用地になっているところもたくさんあると思うが、耕作放棄地もたくさん出ている中で、私の仕事柄でもあるが、自分は農業をやっていない、自分の家の周りは田んぼだらけ、自分の息子夫婦と子どもが都会から地元の親元へ帰ってきてくれるという話があり、でも家は部屋が少ないので隣の土地を買って家を建ててやりたいと思って、私のところに相談が来た。そうしたら、農業振興地域の農用地区域に指定されていて、隣の家の田んぼは使えないということで、市役所の窓口ではねられた。親心とすれば、夢にもないような、うちに帰ってきてくれると嬉しそうに話をされていたが、だめという話をしたときに本当にしょんぼりされて、多分親元には息子夫婦は帰っていない。ということは、市では、恵那市に限らないが、人口を増やしたいと言っているのに、そういう制度やそういう縛りがかかっているという

ことになってしまう。農業振興地域の農用地区域が本当に転用できないかという、実はそうではない。愛知県のある市町村で、農業振興地域の農用地区域を、ある工場の駐車場用地に転用したいという話があり、役所に行くことができるということで手続きが進んでいる。やればできるということが私も分かった。市役所や市長の考え次第だと思う。そういうことも含めて、人口を増やす、人口を維持できる施策はやはり市役所全体で考えていただいてやっていただきたいと思う。

空き家対策で、家と建物は所有、または借りることはできるが、農地は、恵那市では30a の下限がある。3 反の農地を守りするのは大変だ。岐阜県では白川町と八百津町が、一定の条件があるが加減を 1a に今年からした。100 m²だ。100 m²ぐらいなら耕作できるんじゃないか。これは農業委員会サイドの話だと思うが、恵那市でも積極的にやっていただき、農地を借りたり買ったりする制度を設けていただきたい。農林課長にお願いしたい。

■市長 詳しくは農林課長から話すが、私も農振の見直しは、都市計画と併せて、しないといけないと思っている。人口がプラスになっているとき、高度経済成長のときには、規制をしてある程度枠にはめて良好な市街地をつくるという考え方が正しかったので、都市計画は百年の計ということで、旧恵那市の市街地は都市計画の用途地域をはりつけて規制をかけた。農業振興地域は、その投資も含めて、規制をかけて保全した。ただ、今は人口が減少し始めて、その規制が足かせになっているのは事実だ。都市計画も含めて農業振興地域のあり方も見直さないといけないと思っている。今年度農業振興地域の除外手続きの方法も見直しを始めているし、3反ルールも見直しをしている。

■農林課長 農振地域のことは皆さん詳しくすぎて分からないと思うが、簡単に言うと、ほ場整備を昔やったところには法の網がかかっている。平らだから、隣に田んぼがあるからそこにうちを建てようと言っても、そこには国費が入っている。それに対していいですかという伺いを国に立てるとのことだ。今見直しをしている。重要なのは、山岡町の計画がどうあるべきかということだ。個人的に息子が帰ってくるから家を建てるというのは個別の案件になるので、これについてはその都度やりとりするが、山岡町として将来的にここは住宅地にするというビジョンがあれば、計画の中で抜いていくことができる。そういった計画を皆さんで一度考えてくれれば法の網は抜けやすい。

面積を減らすということは、やろうということで、今市長に上げる資料を作っている。1a ということで進んでいる。正式に決まれば報告する。

■山口 2 年前に地域懇談会で前の市長に話したが、山岡駅の交差点にイワクラ公園、山岡駅寒天資料館、今、田んぼアートで若い衆が頑張っているが、案内看板を立てたいということで、まちづくり事業で、県の条例がかかわっていてうまく計画が立てられず、今も入口が本当に分かりにくく、寒天館も田んぼアートを見に来る人も困っている。実現する手立てを教えてほしい。山岡駅前交差点から駅に向かうところです。

■市長 やらせてもらう。早速手配する。2年も遅れて申し訳ない。

6. 市長お礼のあいさつ

■市長 夜遅くまでご参加いただきありがとうございました。職員に言っているのは、施策とは別に、事業としてこういうことをやったらどうかというのは考えてほしいと言っている。山岡として、米作りもそうだし、焼酎も作っているし、鬼まんじゅうも作っている。事業も含めて提案をいただきたい。事業は3割打者でなくてもいい。10打席の1安打でもヒットすれば当たりだと思う。空振りでもいいのでいろいろな事業を考えて、少しずつでもやっていくことが大事だと思う。市でやることは言っただき、自分たちでできることはチャレンジしてほしい。本日は遅くまでありがとうございました。

■司会 皆さん長時間ありがとうございました。言い忘れたことがあれば、インターネットでもいいし、広報の綴じ込みのはがきでもいいので、市に寄せてほしい。

[閉 会]